

管理者	記録者
	

地域連携推進会議 議事録

開催日時	令和7年3月27日 14時～15時20分
場 所	くろだ病院 5階 大会議室
出席者	【構成員】 入居者…1名、家族…1名、 地域の関係者…2名（民生委員、ボランティアグループ会長） 市町村担当者…1名（松前町役場福祉課） 【施設職員】 管理者…1名、サービス管理責任者…1名、精神保健福祉士…1名
議事内容	1. 自己紹介 2. 下記の内容を、スライドを用いて説明を行った。 ①会議の目的 ②共同生活援助とは、障がい理解について ・サービスの内容についてや、利用層、障害等について ③事業所紹介 ・事業所の種類や職員体制、支援区分等について ④入居者の生活について ・日中の様子や他のサービス利用状況、事業所内でのイベント活動について等 ⑤事業所の取り組みやかかわりについて ・事業所内の職員のみや入居者も一緒に行う訓練や研修の紹介、苦情や事故事例について等 3. 質疑応答、ご意見 ・平成5年から動いているのに定員が6名なのは少なすぎるのではないのか。今後増やす予定等はないのか。 他に入りたい人がいた場合はどうしたらよいのか。 →建物の構造上居室が6部屋であるため、これ以上の定員増員が難しい。 →空室が出た時点で募集をかけている。 ・入居者の方は訪問看護を利用していると説明があったが、どのようなことをするのか。 →介護保険の訪問介護とは違い、精神科訪問看護では主に本人と話をし

	て生活や病状、体調等で変わりはないかなどを聞き、適宜アドバイスや他事業所との連携を行っている。 ・ B 型事業所は近くにあるのか →松前町には「かめ」、「ヒカリのアトリエ」などがある。また、現在入居中の方は松山市内の事業所へ通われている方もおられ、いずれの事業所も送迎対応をしてもらっている。 ・ 入居者は社会復帰を目指すのか。 →それぞれの方の目標に応じて変わってくる。 - 自立を目指した施設ではあるが、人によっては単身生活を目指している人もいる一方で、まずは施設での生活を安定して過ごしたいという希望の方もいる。個別に希望を聞きながら支援を行っている。 ・ イキイキハウスは関連施設が近くにあるので恵まれていると思う。 - 一般的な話だが、いろいろお世話を焼きすぎると自分ではできなくなってしまうことがある。時に思い切って施設から地域へ移行することも必要ではないか。 →お世話をする施設ではなく、あくまで本人が今現在できないこと等をできるようになるための一部補足的な支援を行うことが基本的な関わりとなる。支援を行う課程で、できるようになったことは声掛けの頻度を減らしていく等、どうすれば自分ができるようになるか、それを目指し見直しを重ねている。 ・ 病院の規模に対してイキイキハウスの定員が少ない。孤立しているのではないか。不自然に感じる。また病院の人との交流はあるのか。 →病院は基本治療の場であるため、関連施設ではあるが、病院と施設との交流はない。 ・ 入居者同士のコミュニケーションはあるのか →（入居者より回答） - 共有スペースでみんなで話したり、喧嘩もなく楽しく過ごしている。 - 現在の管理者になり、よりイベントも増えて楽しい。 ・ 地域連携推進会議の目的がわかりづらい。 →R7 年度から義務化されたもので、地域共生社会の実現に向け、外部の目を定期的に入れ、取り組み知ってもらったり、より良い関係や支援を行うための情報共有の場。施設や入居者を別物としてではなく、いち住宅や地域住民として接して頂きたい。 ・ 避難訓練について、地域での訓練も年 1 回あるが、寝たきりの人の避難についてなど、自治会、消防、民生委員の 3 機関で検討し行うことが理想だが実施できていない。地域全体として取りくんでいくことの難しさ
--	--

	を感じている。 ・虐待防止、身体拘束適正化委員会の設置について、外部からは内情がわかりづらいし、職員だけでは適切な運営ができているかわからない面もあると思うが、どのような体制なのか。 また、虐待や拘束についてしっかりチェックができているのか。 →3年に一度の県の監査があり、違反すれば指定取り消しもあり得る。行政の指導も入りながら運営している。 →虐待を受けた人の通報や相談窓口はもちろんあり、また、見た人にも通報の義務があるため、定期的に研修も行いながら普及啓発を行っている。 4. イキイキハウス見学 実際に見学していただき、キッチンにて夕食がどのように作られているかや、洗面所、トイレなどどのような状態なのか知っていただいた。 「昔ながらのあたたかい印象を受ける施設構造で良い」「当日のメニューがおいしそう」「清掃が行き届いている」等の感想をいただいた。 5. 次回開催について 令和7年度中に開催予定
--	---